看護従事者育成に関する研究

関連するSDGsの国際目標



人間看護学部　人間看護学科　　講師　　千田　美紀子
研究分野：基礎看護学　看護教育

近年、高齢社会になっていく社会の中で医療に対する安全・安心の意識は高まっており、質の高い医療ケアの提供が求められています。ケアを受ける中でも、その人らしい生活が送れるように支援することが看護職者に求められており、看護学教育にとって重要になると考えます。その実践能力が育つように、看護技術に関する教育方法の検討や、学生一人一人の個別性に沿った支援に関する研究を行っています。

■看護ケアの技術習得するための教育方法の検討

・看護学教育の中で、看護ケアの技術習得は必要不可欠なものです。看護ケア技術には、食べる、寝る、動く、息をする、身なりを整える、身体を清潔に保つなど、生きていくために必要な動作の援助があります。それらの技術が実践できるようになるには、知識・技術・態度を身につける必要があります。現在の教育では、まず技術に必要な知識を「講義」で学び、技術・態度は、学校内で学生同士で実践し合う「演習」を行い、「実習」を通して病院などの現場で実践することで習得しています。



その教育の中でも「演習」に着目し、技術を習得するためにはどのようなことが影響するのか、効果的に学ぶための方法を検討しています。また、技術教育の中で腰痛予防に関する検証も行っています。

■発達障害の特性をもつ学生への支援

・近年、「発達障害」という言葉を耳にすることが増えたと思います。発達障害とは、生まれつき脳の発達がアンバランスであり、ある特定分野の勉学が苦手、コミュニケーションが苦手、こだわりが強い、落ち着きがない、集中力が続かないなど、様々な特徴により日々の生活に困難を抱えている状態のことを指します。現在はそのような人が増加傾向にあり、学びやすい学習環境や働きやすい労働環境を作ることが求められています。その中でも特に看護では相手の気持ちに寄り添うことが大切であり。職業選択をする上でコミュニケーション能力が必要とされます。コミュニケーション技術も学習により、身につけていくことが可能であるため、この特性個々に沿った支援を行うことで、困難が少しでも軽減できるような研究を行っています。

＜研究ノート＞

・「**看護教育における病院実習に関する研究の動向分析と今後の課題**」千田美紀子，米田照美，清水房枝，伊丹君和（人間看護学研究　(11)　45 ～ 52　2013年03月）共著　共同（主担当）